

F i t 協議会へ期待

特積み連携の柱に

旧・日本路線トラック連盟の情報化委員会が独立して生まれたF i tシステム協議会に、特積みの新たな連携基盤としての期待が高まっている。

現在、特積みの業界団体はなく、情報を交換する場は減っている（北海道の特積み企業幹部）。中国地方の特積み企業トップも「特積みだけで話し合う場が必要だ」とする。

今年、国土交通省が物流業界に示した、下請けとの取引適正化の自主行動計画の担い手が特積み企業にほぼ限定されたことに対しては、「路線連盟があれば（北陸の特積み

企業）との声が聞かれた。F i tに「特積み連携の場を育ってくれば」と期待を寄せる関係者は多い。

昨年10月に行われた臨時設立総会には、松岡満留米運送の二又茂明社長が駆け付けた。佐藤社長は「特積み各社が寄り添って歩む基盤になれば」。二又社長も「技術発展が

進む中、F i tの重要性はますます高まっている」と意義を強調した。

同協議会運営委員会の会合では、技術が急速に進展し「新たな連携の可能性が生まれるのでは」（ある委員）と各委員が熱心に情報交換する姿が見られる。特積み連携の新たな柱として、F i tの持つ可能性は大きい。

（佐藤 周）